

千  
里

徐公所作之序，其子之言也。

さて早速、ひきか自立力抜充運動  
といふ会があり、車寅郎の便りにて  
ありえりか。安井郡員山の開会  
の旨を述べ、國庫を費用運営の  
傍邊会加行ゆう了

開会の経は之と同様の主に不一致  
氏へ何かの委嘱をもつてゐる事先、之  
小川義足も一枚加へて随くどの點可  
了の如、是非御参考されたい  
二十五日午後で晴り今日は久喜舞堂高橋  
一二、五分にも十分ほどおこなつたア。  
劇場は劇場迄の間は会つてゐるが、  
待合室へつづけに舞えへてゐるア。  
在り難い事だ、早々

湘陰縣志

白年考

廿年正月廿日  
自井齋二

白井齋

附はは或いは相性不至の結果では至  
かたと思ひます。私物他に一つの会が  
あり、そこを牛座一で開化公へ参り  
まへたが数々も傍らい様子のせ故に  
つま、出た氣持で云々。他の音名など  
うわがふれ。二  
軍州の建碑は金大和一と、秋の山をにあこ  
まれて因金宿で先失と一軒出来なかつ  
た所、極念です。金身会帳のころを流  
す下す。在因、先に立とさうするよりが先則  
重づいたものの大仰と思ひますか何が判教に  
あるふゆと思つて思ひます。前後もこよからぬ  
と思ひます。吉良の「ころさかし」といふく  
釣傳の「ころさかし」といふことを  
跡に陽氣をもたらすいものです。修行處  
の吉良は源氏の「ころさかし」が、御遺送答馬に解  
説しておられたが、御遺送答馬が